

根室海岸地域における巨大津波痕跡の層序

Stratigraphic succession for large tsunami traces along Nemuro coastal zone

七山 太 [1]; 添田 雄二 [2]; 猪熊 樹人 [3]

Futoshi Nanayama[1]; Yuji Soeda[2]; Shigeto Inokuma[3]

[1] 産総研 地質; [2] 道開拓記念館; [3] 根室市歴史と自然の資料館

[1] GSJ/AIST; [2] Historical Museum of Hokkaido; [3] The Introduction of Nemuro City Museum of History

北海道東部太平洋沿岸域は、七山・重野（1998）による報告以来、完新世に堆積した泥炭層および湖沼堆積物中の津波堆積物に関する研究が活発に行われてきている。これによって、十勝海岸～霧多布湿原間の巨大津波痕跡層序は概ね確立されたと考えて良い（例えば、Nanayama et al., 2003）。しかし、根室海岸地域においては、未だ不確定な部分が多い。2005年10月中旬に、根室市において、巨大津波痕跡トレンチ調査を実施し、根室市民に公開した。この際、新たな知見が得られたのでその概要を報告する。今回のトレンチ調査の結果、15層の巨大津波痕跡が確認されたが、これは十勝海岸～霧多布湿原で確認されている同時代の巨大津波痕跡よりも多い。よって、霧多布湿原以東の太平洋沿岸地域においては、十勝沖+根室沖の連動型地震による津波波源以外にも、新たに歯舞・色丹島側にも波源を想定する必要があると考えられる。引用文献 七山・重野，1998，月刊地球号外，no.15，177-182；Nanayama et al.,2003，Nature，424，660-663.